

事務事業評価シート（評価実施年度：平成27年度）

上位の施策名称	施策Ⅲ-1-2 発達段階に応じた教育の振興
---------	-----------------------

1. 事務事業の目的・概要

事務事業担当課長	保健体育課長 堀江 隆典	電話番号	0852-22-5722
----------	--------------	------	--------------

事務事業の名称	子どもの体力向上支援事業		
目的	(1) 対象	児童生徒	
	(2) 意図	運動の楽しさを体験し、運動が好きになることで、基礎的な体力・運動能力の向上を図り、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力を身に付ける。	
事業概要	子どもの体力の低下問題に対応するため、学校や地域において、子どもの体力向上を目指した取組を促進し、子どもの体力向上を図る。		

2. 成果参考指標

(1) 成果参考指標	指標名	親世代との体力比較（昭和61年を100とした場合）	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位
			式・定義	体力テストの数値比較（中学校2年生）	目標値	95.50	96.50	96.50	
			実績値	99.40	95.40	95.30			%
			達成率	99.40	98.90	97.80			%
指標名	式・定義	年度	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	単位	
			目標値	0.00	0.00				
			実績値	0.00	0.00				
			達成率	0.00	0.00			%	

3. 事業費

	26年度実績	27年度計画
事業費(b) (千円)	17,827	12,268
うち一般財源(千円)	14,563	8,853

4. 改善策の実施状況

前年度の課題を踏まえた改善策の実施状況	②改善策を実施した（実施予定、一部実施含む）
---------------------	------------------------

5. 評価時点での現状（客観的事実・データなどに基づいた現状）

・「体力・運動能力等調査」結果では、小学校では男女とも全国平均より高いが、中学校では男子が全国平均並みで、女子は全国平均より低い。また、島根県の小・中学生は体格が小さく、筋力や柔軟性が低い。
 ・体力値に歯止めはかかっているが、県のピーク時の昭和61年の数値と比較すると依然低い状況にある。
 ・家庭や地域と連携して体力づくりに取り組んでいる学校の子供たちは、体力レベルが高い。
 ・女子においては、小学校から中学校、高校となるにつれて体力値が低くなっていく傾向が見られる。

6. 成果があったこと（改善されたこと）

・指導主事による全小中学校訪問、モデル指定校の研究実践などを通して、体力向上のための活動や「しまねっ子！元気アップレポート」の活用など、学校において積極的な取組が定着し始めている。
 ・1週間の総運動時間が60分未満の児童生徒の割合が減ってきている。
 ・学校現場の努力により「体育の授業は楽しいですか？」「運動やスポーツをすることは好きですか？」という問いに「そう思う」と答える児童生徒の割合が多くなった。

7. まだ残っている課題（現状の何をどのように変更する必要があるのか）

①困っている「状況」

・運動離れや運動をする子としない子の二極化による児童生徒の体力や運動能力の低下
 ・小学校入学時点ですでに学校生活に必要な運動能力を獲得できていない子どもの存在
 ・女子の運動離れや体力の低さ

②困っている状況が発生している「原因」

・生活様式の変化や三間（時間・空間・仲間）の減少により運動経験の質や量が減少している。
 ・運動が得意な子どもでも単一のスポーツ経験が中心で、様々な遊びを経験していないため、特定の動作や運動が身につけていない。
 ・女子の運動部活動離れと授業の中で運動の楽しさが実感できない。
 ・家庭や地域での体力向上に関する意識や連携のあり方が十分でない。

③原因を解消するための「課題」

・生活習慣の変化による失われた動きや運動を適切な運動プログラムにより補う必要がある。
 ・授業以外においても運動時間・運動量を確保する必要がある。
 ・幼児期から様々な遊びや運動に親しみ、体を動かす習慣を身に付けさせる必要がある。
 ・授業において達成感や充実感を味わえるような教材の研究や指導方法の工夫が必要である。
 ・運動習慣の改善を図るためのプログラム等を地域や家庭と連携し実施していく必要がある。

8. 今後の方向性（課題にどのような方向性で取り組むのかの考え方）

・楽しみながら運動に取り組むことができる「しまねっ子！元気アップ・プログラム」の活用と普及
 ・授業以外の屋休み等を活用した子どもが運動に親しみやすいレクリエーションなどの運動プログラムの提供
 ・幼稚園や保育関係者、保護者等を対象に幼児期の実技講習会の開催や親子で取り組む運動遊びの普及啓発
 ・小中学校への指導主事訪問や女子の運動離れに対応した教材の工夫や開発などによる授業の改善と授業力向上への取組
 ・地域における体力向上推進活動の支援（公民館、地域総合型スポーツクラブ等）

◎課(室)内で事務事業評価の議論を行うにあたっては、本評価シートのほか、必要に応じて、「予算執行の実績並びに主要施策の成果」や既存の事業説明資料などを活用し、効率的・効果的に行ってください。

◎上記「5. 評価時点での現状」、「6. 成果があったこと」、「7. まだ残っている課題」、及び「8. 今後の方向性」について、議論がしやすいように、「5. 評価時点での現状→6. 成果があったこと」、又は「5. 評価時点での現状→7. まだ残っている課題→8. 今後の方向性」が一連の流れとなるよう、わかりやすく、ストーリー性のあるシート作成に努めてください。

9. 追加評価（任意記載）